

< 認知症対応型共同生活介護用 >

評価結果報告書**地域密着型サービスの外部評価項目構成**

理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4675100087
法人名	医療法人 慈和会
事業所名	永田診療所グループホーム
訪問調査日	平成21年2月11日
評価確定日	平成21年3月30日
評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載します。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入します。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけます。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容について記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 2009年2月20日

【評価実施概要】

事業所番号	4675100087		
法人名	医療法人 慈和会		
事業所名	永田診療所グループホーム		
所在地	郵便番号 895 - 2813 鹿児島県伊佐市菱刈南浦3492番地 (電話) 0995 - 26 - 0051		
評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま		
所在地	鹿児島市下荒田2丁目48番13号		
訪問調査日	平成21年2月11日	評価確定日	平成21年3月30日

【情報提供票より】(平成20年12月14日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)12年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	23 人	常勤	10人, 非常勤 13人, 常勤換算 12.6人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	1階建ての 階 ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	350 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	150 円	昼食	250 円
	夕食	300 円	おやつ	円
	または1日当たり 700 円			

(4) 利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	4 名	要介護2	7 名		
要介護3	4 名	要介護4	3 名		
要介護5	名		要支援2	名	
年齢	平均 83.6 歳	最低	68 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	永田診療所 大口病院 寺田病院 こうき歯科医院
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは管理者が地元診療所の医師であり、開設当初から地域密着型として地域住民にも親しまれている。イベントもグループホーム敷地内において開催され、子どもから高齢者まで地域とのふれあいの機会が多い。ホームの自慢である「オキナグサと花菖蒲」のシーズン中は見学者でにぎわう場でもある。利用者の生活歴、趣味を考慮しながら一人ひとりの楽しみごとを優先した支援を考えている。管理者の「美味しい食事を三度いただいて毎日をゆっくり楽しく暮らせればいいのでは」の、思いが反映され、職員同士もチームワークの良さを発揮し心を一つに利用者にかかわりながら勤務に励んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	夜間の防災訓練について指摘され、運営推進会議でも議題に出して検討中である。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価、外部評価の意義を理解し、各ユニットごとに職員全員の自己評価を吸い上げ、管理者がまとめている。また、外部評価の結果を踏まえて改善に努力している。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	地域代表、行政職員など多くの参加を得て定期的に行われている。討議内容に「ホーム前と神社前の舗装道路の修理」や「小学校講堂入り口の段差解消」「スプリンクラーの設置」などの意見があり、サービス向上の基盤作りに活かしている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	面会時の声かけや年2回の家族会など意見や要望を出してもらえ体制はととのっている。家族からの苦情はほとんど受けていない。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ホームの周辺は子どもから高齢者まで多くの人と関わる立地条件に恵まれていて地域住民、幼稚園児、小学校児童とのふれあい交流(学習発表会、運動会、小学校4年生の総合学習会)は毎年の恒例になっている。地域の方からも年間を通じて季節の野菜、スイカの差し入れ、観賞用に手つくりの菊や洋蘭を届けてもらうなど、地域との連携が密である。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	住み慣れた地域での安心した暮らし、地域生活の継続を支える事業所独自の理念を作りあげている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は毎朝、唱和している。また、職員は5つのモットー(良い笑顔、良い挨拶、良い声かけ、良い返事、良いスキンシップ)を心がけ、理念の実践に日々取り組んでいる。基本理念を集約した「今日も楽しくゆっくりやさしく笑顔で」を、月1回発行の「ゆっくり便り」に掲載し、家族や地域へも理念の浸透を図っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	広報誌「ゆっくり便り」を小学校、幼稚園、公民館、駐在所などに配布している。幼稚園、学校、地域の行事などにも積極的に参加している。ホーム敷地内で開催される地域高齢者との交流会、六月灯祭り、花菖蒲やオキナグサ祭りと利用者が地域で暮らし続けるための基盤づくり、地域の一員として交流できている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全員で自己評価に取り組んで管理者でまとめている。評価で気づきもあり、改善の取り組みにも努力がうかがえる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者、家族・地域・行政代表などの参加を得て定期的に行われている。取り組みの意見として「ホームと神社前の舗装修理」「小学校講堂入り口の段差解消」「スプリンクラーの設置」などの意見が検討されサービス向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	広報紙を定期的に配布している。平成18年度に立ち上げた「伊佐地区地域密着型サービス連絡協議会」で行政との話し合いができています。スプリンクラー補助の情報をもらったり、市の担当者に運営、サービスについて相談しながらサービスの向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用料金の受け取りや面会、家族会時に利用者の生活状況を報告している。遠方の家族には電話や広報紙郵送時に日々の暮らしぶりや身体状況を添え書きして報告している。金銭管理は出納帳で確認してもらいサインをもらっている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や認定更新の担当者会議の際に職員は家族などと話す機会をつくり、意見を出しやすいように心がけている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者のダメージを防ぐ事を念頭に、職員の異動や離職を防ぐ努力をしている。利用者、職員はほとんどが地域内の顔なじみである。また、行事なども施設合同で実施し、なじみの関係ができています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修案内を回覧し、職員の希望する研修に交替で参加し、研修報告書を提出、他の職員も共有している。内部研修も随時、AEDの使用方法について学んでいる。また、介護福祉士、ケアマネージャーなど資格取得への支援体制もある。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地元の連絡協議会に参加、勉強会も実施している。地域との交流会に他所のグループホームの職員、利用者が訪れたり、当グループホームも他所を見学し、参考になる例は取り入れ、サービスの質向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	地元診療所であるという関係もあり、信頼関係ができています。入居希望者はお茶や食事の時間を利用し気軽に過ごしてもらっている。入居後も家族の協力をもらい、細かく話し合いながら徐々になじめるよう毎日の生活に配慮している。今後は職員が自宅訪問し、より深く利用者の生活を理解した支援体制を考えている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者に寄り添い一緒に過ごし、学びあい支えあう関係を築いている。いろいろな事柄を共有し、喜怒哀楽を共にしながら家族的関係を築いている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	帰宅願望の強い利用者には家族からの情報や協力(外出、面会)をもらったり、本人が落ち着くまで行動を共にし、見守っている。寄り添い、話をよく聴いて本人本意に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の意見や希望も十分取り入れ、家族や職員からの情報提供をもとに毎日を、今後を楽しく過ごす事に徹した介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ほぼ3ヵ月ごとに見直しをしている。入退院後や状態変化の際は現状に即した介護計画の見直しをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	墓参りなどの外出支援、精神科認知症デイケアへの通所、同敷地内の診療所受診、デイサービス施設でのリハビリなど柔軟に支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の希望するかかりつけ医の受診が継続できるように支援している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時や急変時に主治医が家族と話し合いを持ち、重度化や終末期に向けた方針を明確にし、職員全員も方針を共有している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者は利用者のプライバシー保護や個人情報保護の重要性を説明している。利用者の誇りやプライバシーを損ねないよう、さりげない声かけや対応に留意している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者が自分で決めたり、納得しながら利用者個人のペース、希望に沿って暮らせるよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の野菜の収穫や下ごしらえ、配膳下膳の手伝いをしたり、無理強いすることなく職員も一緒にその人のペースに合わせ、サポートしつつ食事をしている。ほとんどの利用者が全量摂取している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	温泉風呂のため、いつでも入浴できる状況にある。普通は週3回と決め、状況に応じて臨機応変に対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴、趣味を考慮しながら園芸、歌、貼り絵、俳句、踊り、三味線、新聞や週刊誌のクロスワードなど一人ひとりの楽しみごとを優先させた支援をしている。歩行自立の利用者が車椅子利用者の介助をしたり、金銭管理可能な利用者は訪問販売車や近くのお店での買い物を楽しんでいる。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	食材の買い出しや隣の神社や敷地内の庭園、屋根付きゲートボール場を散策している。天気の良い日は庭園の花菖蒲を見ながらおにぎり食べたり、桜の花見、ソーメン流し、大型スーパーでの買い物、外食など楽しんでいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	見守りを重視し日中は鍵をかけないケアに取り組んでいる。外出の際はさりげなく声かけし、一緒について行くなど自由な暮らしを支援している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	水害の経験もあり消防団や近隣の住民との協力体制ができています。日中の防災訓練は年2回実施している。指摘されている夜間の訓練も考えているが実施できていない。近日中にスプリンクラーの設置に取り組む予定である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を記録し、毎月1回体重測定も行い、一人ひとりに応じた摂取量の確保が出来るよう支援している。身体状況に合わせて食事形態(トロミ、キザミ)を配慮している。栄養バランスは併設のデイサービスの栄養士にアドバイスをもらっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームの周囲は桜、花菖蒲、オキナグサなど四季折々に花を楽しめる環境にある。玄関はスロープ式、廊下やリビングにはソファも用意され、壁には利用者の貼り絵や俳句が飾ってありくつろげる空間になっている。トイレ、浴室も利用者の身体機能に配慮され居心地よく過ごせるよう工夫されている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室入口には暖簾、居室内にはテレビ、ラジオ、家族の写真、利用者の自作品を飾っている。ベッドの周囲を畳にしたり、部分的に滑り止めを置いたりして家族、本人の希望を取り入れ、安全に配慮した居室に工夫されている。		